

1 研究主題

自ら学ぶ子どもが育つ学習指導の在り方を探る
～「春日っ子授業スタイル」の授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

近年、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化が人間の予測を超えて進展している。このような社会において、予測できないような事態に遭遇しても、受動的に対処するのではなく、主体的に向き合い、他者とかかわり合いながら問題解決を図っていく人材が求められている。そのため、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした「アクティブ・ラーニング」の視点から授業改善の取組が提起されている。そこで、子どもたちの発達段階や特性、教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい指導方法を選択しながら、実践できるようにすることが重要である。

本校の子どもたちは、学力状況調査の結果から「読むこと」領域において課題がある。特に、叙述に着目しながら文章の内容を正確に理解する力が十分ではなく、国語に対する関心・意欲も高くはないという実態があった。これらのことから、主体的に学習に取り組みながら読み取り方を身に付けることが必要であろうと考え、確かな読みを培う国語科学習指導の在り方について、研究を重ねてきた。その結果、根拠をもって自分の思いや考えを表そうとする子どもの姿が見られるようになってきた。しかし、自分から進んで学習に取り組んだり読み取ったことを積極的に表そうとしたりしている子どもは多くはない。

そこで、次期学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」につながるように、友達と思いや考えを交流しながら、自分から進んで学びへと向かう子どもの姿をめざしていきたい。そのために、子どもたちが学びの目的や学習の必要性を意識して取り組むことができるような授業スタイルを全職員が共通理解し、実践を積み重ね、教師自身が授業力の向上を図ることで、子どもたちの学ぶ意欲を高めさせたい。そうすることで、自ら学ぶ子どもの姿が育つであろうと考える。

3 研究の目標

自ら学びへと向かう子どもを育てる学習指導の在り方を探る。

4 研究の内容

- 主体的に読み進め、対話を通して自分の思いや考えを深める国語科学習指導の在り方を探る。

5 研究の方法

- 「春日っ子授業スタイル」を基に授業を作っていくことで、基本的な学びのスタイルを身に付けさせる。
- 1単位時間における話し合いのテーマ（「お題」）を設定し、主体的に読んだり対話したりしながら、考えを深めさせる。

6 研究の重点目標

視点1…学習の目的や必要性を意識して取り組むことができるように、「めあて」「まとめ」「振り返り」を関連付けて1単位時間の授業を行う。

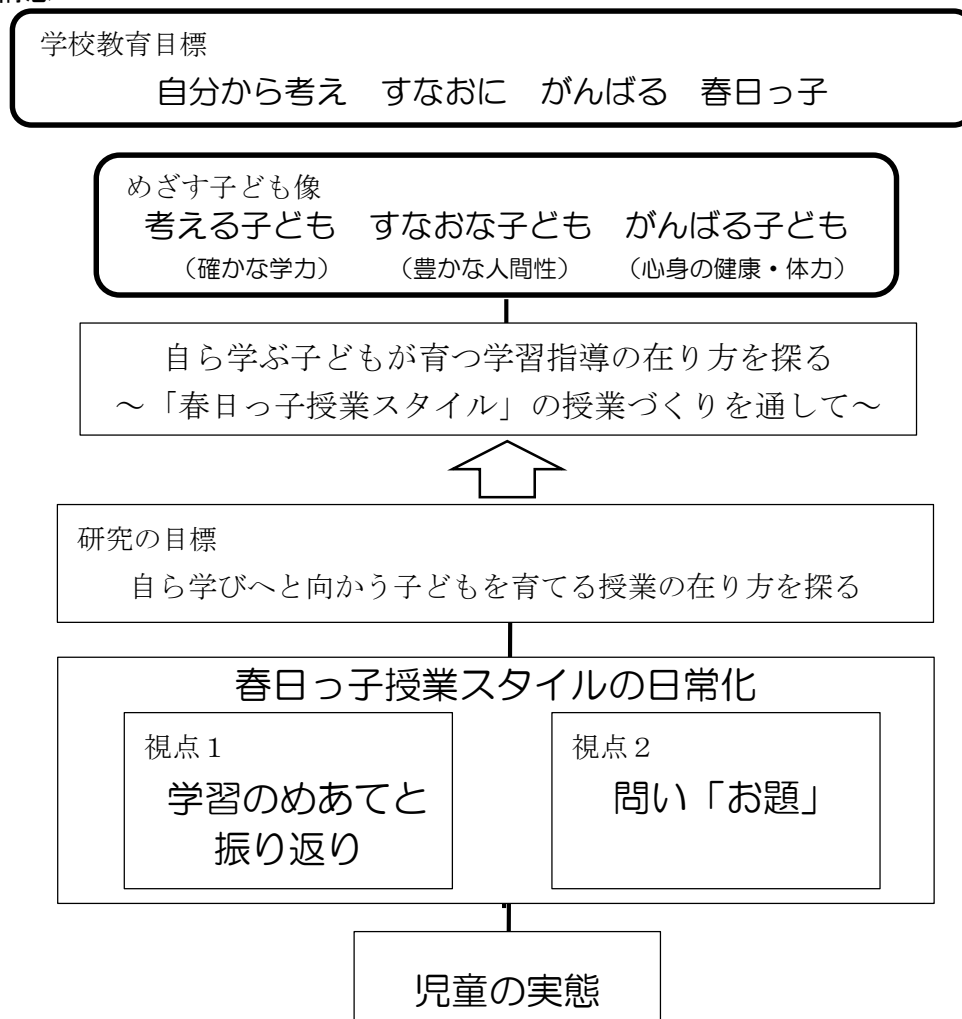
視点2…対話を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりするために、問い（お題）を設定する。

視点3…「友達の考えのよかったところ」を振り返りに書かせる。

7 期待される研究の成果

全職員が「春日っ子授業スタイル」を実践していくことで、どの子どもも基本的な学習スタイルを身に付けることができるであろう。この「春日っ子授業スタイル」を土台に、1単位時間ごとに子どもが本気になって話し合いたくなるような話し合いのテーマ「お題」を設定し、「お題」について、小集団や全体で根拠を明らかにしながら交流することで、自らの考えを広げたり深めたりする子どもの姿を期待したい。

8 研究の構想



9 研究の組織

- 研究推進委員会・学力向上委員会（校長・教頭・主幹・教務・研究主任・学年代表・特支代表）
 - ・校内研究の企画
 - ・校内研究の提案等について検討・調整
- 思考と未来部会（坂田・武藤・松下・江頭・峰・永松・大野・瀬戸・指導教諭）
 - ・校内研究の提案等について検討・調整及び各学年への連絡調整，家庭への情報発信
 - ・「春日っ子振り返り」の準備，望ましい学習・生活習慣の提案
 - ・スキルタイムのコーディネート
- 全体会
 - ・全体の理論研究，各部会の研究内容について協議
- 各学年部会（低・中・高）
 - ・指導計画等の作成や授業計画の推進・交流 ☆級外，TT 担当は各学年に所属

10 各学年部員

低学年部…原口，○武藤，○松下，江口，山口さ，○大野，梅崎，林

中学年部…○江頭，徳永，坂井，○坂田，川原，宮島，○瀬戸，國平，松原

高学年部…前山，○峰，堤，○永松，水町，熊井，山口け，行武，○三好

11 研究の計画

1 年次…研究主題と研究の目標を設定し，授業実践を通して加除修正する。

2 年次…1 年次の成果と課題を基に，研究の目標の観点から視点を見直し，まとめる。

今年度の研究計画

月	研究会	研究内容
4	「思考と未来」部会 研究推進委員会 全体研修会	研究主題・研究目標及び研究内容と方法についての概要説明 本年度の研究の方向性の共通理解，年間研究計画
5	「思考と未来」部会 研究推進委員会 全体研修会	授業者決定・単元決定 1 学期の研修計画
6	「思考と未来」部会 全体研修会	全校授業研究会Ⅰ（予定） ※日程未定 ※グループ授業研究会は適宜実施
7	「思考と未来」部会 全体研修会	「春日っ子授業スタイル」をもとにした授業の在り方を振り返る。学年ごとに「お題」を用いた授業，日々の授業の板書やノート，自主学習を学年ごとで発表し合い，1 学期の授業の在り方について共通理解を図る。
8	「思考と未来」部会 全体研修会	各教科等についての研修
9	「思考と未来」部会 全体会	2 学期の研修計画
10	「思考と未来」部会 全体研修会	全校授業研究会Ⅱ（予定） ※日程未定 ※グループ授業研究会は適宜実施
11	「思考と未来」部会 全体会	全校授業研究会Ⅲ（予定） ※日程未定 ※グループ授業研究会は適宜実施
12	「思考と未来」部会 研究推進委員会 全体研修会	「春日っ子授業スタイル」をもとにした授業の在り方を振り返る。学年ごとに「お題」を用いた授業，日々の授業の板書やノート，自主学習を学年ごとで発表し合い，2 学期の授業の在り方について共通理解を図る。
1	全体研修会	「春日っ子授業スタイル」について達成状況を振り返る。
2	研究推進委員会	研究の成果と課題について出し合う。
3	「思考と未来」部会	課題をもとにした次年度の研究の視点を考える。

*全校授業研究会を行わない学年はグループ（低・中・高学年の各学年のみの参観）授業研究会を行う。

*算数 TT は，TT，もしくは少人数等，実態に応じたスタイルでグループ授業研究会を行う。

*特別支援学級は，授業公開週間を設ける。全職員，授業公開週間中に参観を行う。

スキルタイムについて

春日小のスキルタイム計画

基本的な考えと活動の方法

- ①火曜日は算数スキルタイム 木曜日は国語スキルタイム 8:20～ 15 分間
- ②全校一斉に「立腰」の合図で1分間の立腰。その後、スキルタイム開始。
- ③15分間を5分間×3回に分ける。声を出す、考える、書く等の活動をテンポよく行う。
- ④当日の活動を黒板に掲示する。

算数スキルタイムの例

- ①フラッシュカード1
・暗算、かけ算九九
- ②フラッシュカード2
・面積・体積・速さの公式、図形の名称、単位換算など
- ③四則計算プリント(1～5年)
すくすくテスト(6年)

国語スキルタイムの例

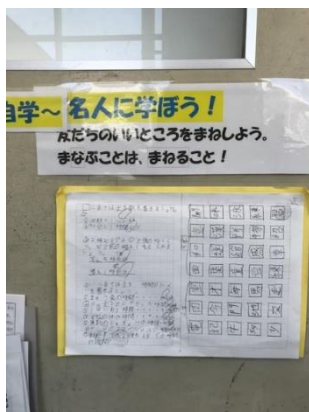
- ①音読(音読集、教科書教材文)
- ②フラッシュカードを使った活動
・漢字の読み、四字熟語、ことわざ等
- ③視写、聴写、言葉集め等を書く活動
・短い物語やコラム等を読み3文程度で感想を書く

予想される効果

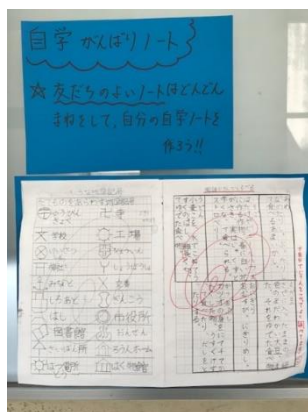
- ①5分ずつ3回分けて行うことで、意欲を持続させることができる。
- ②板書や机上の準備で見通しをもつてのぞむことができる。準備の大切さも学ぶ。
- ③声をしっかり出して活動することで集中力が増す。学級全体に活気が出る。
- ④朝1番に声を出し、十分考えることで、その日の学習に取り組むことができる。

家庭学習について

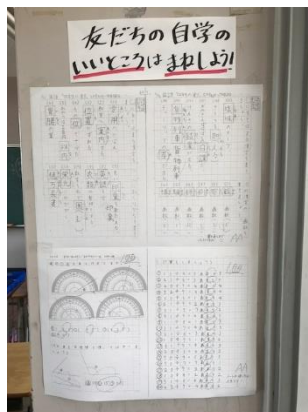
全学年で自主学習を家庭学習に取り入れる。子どもの実態に合わせ、「基礎・基本」を徹底させるのか「活用問題」に取り組ませるのか、オリエンテーションを行い自分の力を少しでもレベルアップさせ、「自分もできる!」という満足感がもてるように促していく。また、各学級で優れた子どもたちの取組を掲示し、すべての子どもたちに自主学習の在り方について共有し合う。



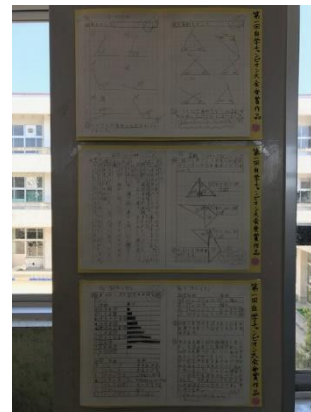
3年2組の掲示の様子



3年3組の掲示の様子



4年1組の掲示の様子



4年3組の掲示の様子

子どもが輝く「春日っ子授業スタイル」

「勉強が楽しい!」「友達がいるから楽しい!」そんな子どもたちの声が聞こえる学校になってほしいですね。そのためには、全職員が同じイメージをもって授業にのぞむことが大切です。

春日小の授業スタイルは「子ども主体の考える授業」です。

授業を通して、「かんがえる子ども」「すなおな子ども」「がんばる子」全職員で徹底して取り組みましょう!

1 学習規律を徹底する

学力の向上を図るためには「学び合う集団づくり」が不可欠です。そのためには、子ども主体の授業づくりとともに、落ち着いた環境をつくらなければなりません。そこで、全職員で共通理解し、担任以外の先生が授業をしても同じ環境で学習ができるように、最低限の学習規律を実践していきましょう。

- 筆箱の中身は必要最低限にする
- 授業前に学習の準備をする
- 教科書、ノート、筆箱等の置き方を守る
- 授業前と授業後は「立腰」のかけ声で10秒程度「立腰」をする
「立腰をやめてください」の合図で終わる
- 相手や場に応じた言葉遣いで話す
- 授業で使ったものは、決められた場所に戻す



2 授業を構造化する

先生はいろいろな知識を豊富にもっています。その知識を「子どもたちに話したい伝えたい」という思いが強すぎるあまり一方的に説明ばかりしてしまうと、先生は気持ちがよいかもしれませんが、子どもの「考える力」は育まれません。「考える力」を育むためには、自分の考えをもち、試行錯誤したり話し合ったりして「なるほど!」「できた!」というような経験を積み重ねることが大切です。

子どもたちに「考える力」を育む力ためには、ドラマの筋立てのように構想して、授業の構造化を図ることが大切です。まず、授業の展開と大まかな子どもの反応を予測します。次に、山場となる場面を焦点化します。この山場が、子どもたちに考えさせる場面です。そして、この山場へどのようなアプローチができるかを考えるストーリーが大切なのです。

図工の学習例に挙げてみます。導入で提示した2つの参考作品をみて、どちらが好きかを選び、その理由を発表させたとします。そこで、大切なことは「比較鑑賞して浮かび上がらせたいことは何なのか」ということです。子どもたちが発表して挙げた理由を整理して形「色」「バランス」など制作する際の観点を導き出します。「何を考えさせたいのか」を明確にもち、整理することが先生の役割です。

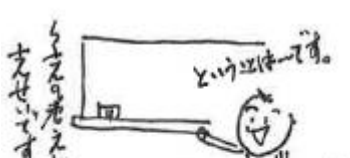
国語の書く学習でも同じようなことが言えます。「モデル文」を提示することで、子どもたちに考えさせたいことは



何かということをもておく必要があります。

比較・矛盾等を生じさせ問題を際立たせることで、子どもは問題をはっきりとつかみ自分の立場を明確にする必要に迫られます。立場をはっきりさせることで、どの子ども授業に参加することができます。自分の立場をはっきりさせ、考えをもたせることでグループ学習の意義が生まれます。「友達はどう思っているのかな」「私は〇〇さんと立場は同じだと理由が違う。そういう考え方もあるのか」など自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっていきます。

基本的な授業の流れ

学習過程	学習活動	子どもの意識
1.つかむ 【導入】	○学習への意欲をもつ ・「やってみたい!」「何だろう?」など、子どもたちの必要感や疑問などをもち、学習意欲が高まる課題を提示する。 ○めあてを知る ・この1時間で子どもたちに身に付けてほしいことを具体的に表す。	どうしてかな? 何で? 
2.見通す 【導入】	○学習の方向性をつかむ ・1時間の活動の流れを具体的に示す。 ・めあてを解決するための方法を提示したりみんなで考えさせたりする。	できそう! 
3.考える 【展開】	○自分の考えをもつ ・「見通し」で提示されたことをきっかけにして、根拠や理由をもって自分の考えを書く。 ○友達と考えを共有する ・小集団で自分の考えを述べたり友達の考えに共感したりしながら考えを広げる。 ○自分の考えを再考する ・「これができたらいいね!」を提示し、判定基準を共有化する。 ・小集団活動後話し合ったことをもとにしたり、全体交流で話し合ったりしながら自分の考えを再考し、書き表す。	
4.まとめる 【終末】	○再考した考えを共有したり結論づけたりする ・全体交流で話し合った結果を書く。	
5.振りかえる 【終末】	○めあてにもどって、わかったことやよかった友達の考えを書く ・「～するためには～すればいいことがわかりました」「〇〇さんの～が良かったです」など、めあてに戻り、本時で学んだことを書く。	

3

春日小グループ学習の基本1, 2, 3！

.....

グループ学習は、子どもたちにとって魅力的で楽しいものです。メリットとしては

- ①少人数で活動できるため、緊張感が和らぎ、気付いたことや考えたことが言いやすい。
- ②一人ひとりの発言機会が増えることで、自分の考えを表すことができる。
- ③意見を出し合うことで、思考が促され個々の考えが整理される。

ということが挙げられるでしょう。

先生はいろいろな知識を豊富にもっています。その知識を「子どもたちに話したい伝えたい」という思いが強すぎるあまり、一方的に説明ばかりしてしまうと、子どもの「考える力」は育む機会をうばってしまうことになります。「考える力」を育むためには、自分の考えをもち、試行錯誤したり話し合ったりして「なるほど!」「できた!」というような経験を積み重ねることが大切です。

小集団学習を有効な手立てとするためには、グループ学習基本の1, 2, 3を意識して指導に取り組むといいでしょう。

基本1 グループ学習の意図やめあてをはっきりさせる

今からするグループ学習は「考えを広げる」のか「考えを深める」のか、グループですべきことをはっきりさせてのぞませることが大切です。「考えを広げる」なら「グループで考えを5つ出しましょう」とか「グループで伝え合って理由を1つは増やしてください」などの指示が必要です。また「考えを深める」なら「考えを出し合って意見を1つにまとめてください」「1番納得できる考えを1つに絞ってください」などの指示が考えられるでしょう。いずれにしても、子どもたちが何のために話し合いをするのか、明確にすることが大切です。

基本2 コミュニケーションの基本を徹底する

○ 意識して相手の目を見る

聞くときだけでなく、話すときにも話し手の目を見るように促します。日直で学級全体の前に立たせ立腰を呼びかけるなど、人の目に慣れるステップを踏んで、子どもたちの抵抗感を少なくします。そうすると、発表にもなれてきます。

○ うなずく・あいづちをうつ

相手の間や呼吸に合わせてうなずく、あいづちを打つ指導を行いましょう。うなずいたりあいづちを打ったりすることで、話し手が話しやすくなります。すると、会話のテンポや流れがよくなります。学級全体で「みんなに話をするのはいい気分だなあ」という雰囲気づくりが大切です。



基本3「ステップアップ」しながら指導をする

グループをつかって「さあ、話し合ってください」と言われても、子どもたちは戸惑うばかりです。まずは隣の席の友達と考えたことを交換して読み合ったりグループ内で意見を出し合ったりすることからはじめましょう。意見を出し合う場面では、話をしている子どもの方を向いてうなずいたり「あ、同じだ!」「〇〇は同じだけど理由が少し違うな」などつぶやいたりしている子どもを称賛しましょう。「こういう反応がいいことだ」ということを全体に価値づけていきます。

意見を出し合える雰囲気がつくれたら「意見を出し合うことが上手になったね。では、次の話し合いのレベルに挑戦してみましょう」と伝え、確実にステップアップしていることを実感させていきます。それができてきたら「今日は『まとめ型』の話し合いをしてみましょう」と伝え、次の段階に進みます。「まとめる」ということは、「複数の考えを付け加え合う」「複数の考えを、別の言葉に言い換える」など、子どもたちに何をすべきなのか、具体的に提示する必要があります。子どもたちが「グループ学習は楽しい」と思えるように、段階的に、そして具体的な手立てを講じていきましょう。



4 全体交流の充実

どの教科でも、グループ学習後に全体での話し合いが設定されることが多いと思います。この全体交流は、出された考えを整理したりまとめたりするために大切な場です。教師と限られた子どもだけのやりとりや先生にとって都合のよいつぶやきだけを拾って進めていくと、学級全体の話し合いとしては低迷してしまいます。その結果、子どもの「考える」機会をうばってしまうことになりかねません。この場では「発言の質と量」が必要です。話し合いを活性化させるためには、先生が「全体交流で子どもたちに考えさせたいことを明確にもつ」ことが大切です。スムーズにまとめにつながるためにも、先生の適切な指導が必要です。「話型・聴型」をきっかけにして、話し方・聴き方を身に付けさせましょう。まずは、聞く構えである「認め技」「確かめ技」などの聴型を身に付けることが大切です。

学年	1・2年生（低）	3・4年生（中）	5・6年生（高）
認め技 （聞く力）	・うん、それで・そうそう ・へえ、そうだね。 ・いいです。	・そうなんだね。　・へえ。 ・なるほど。　・いいね。 ・いいと思います。	・そうだね。・なるほど。 ・確かに。・納得です。 ・その考えはいいと思います。
確かめ技 （応じる力）	・〇〇さんは～って言ったけど、 ・〇〇さんは～と言いましたね。 ・〇〇さんが言ったことに質問です。	・〇〇さんが言ったことは～だということですね。 ・〇〇さんは、それは～ということですか？	・〇〇さんが言ったのは～ということですね。 ・〇〇さんが言ったことを言い換えると～ということですね。
提案技 （話す力）	・私は、…だと思います。 ・私は、□□がいいと思います。なぜかというと、	・私は、〇〇だと考えます。 ・私は、□□がいいと思います。理由は、…だからです。	・私の考えは、〇〇です。その理由は… ・私は〇〇だと考えます。たとえば、…

- ① 聞く力…聞く力は、相手を受け入れる力であり、相手の話を受容的に聞くことができる力
 - ② 応じる力…相手のことばを受けて返したり、相手のことばに関連付けて発言したりすることができる力
 - ③ 話す（伝える）力…自分の思いや考えを相手に伝える力
 - ④ はこぶ力…話し合いをまとまりととらえ、目的に照らして筋を意識して話し合うことができる力
- * 基本技（ ）内は、求めたい対話の力

5

板書で授業を構造化

板書は、学習した内容をわかりやすく子どもに示すものです。学習する内容や活動を整理し、新しい知識を習得させたり理解や思考を深めたりする手助けとなります。あらかじめ、板書案を考えておくと、1時間の授業を構造化させることができ、子どもたちが話し合って考えた軌跡をたどる有効な手立てになります。

板書すべき内容

- ・学習した日・教科書のページ・単元（題材）名・何時間分の何時目・本時のめあて
- ・予想や解決のための方法・子どもの考え・学習内容にかかわった重要な発言や言葉
- ・本時のまとめ

国語科の例

再考する	話し合った結果（まとめ）	自分の考えと友達への考え	つかむ・見通す	めあて
キヤッチフレーズを書く 「これができるといいね」 ・前は、うたが、今は、と書くことができる…○（B判定） ・理由まで書くことができる…花丸（A判定）	まとめ ・花は同じだが、青いばらと比べることであわいピンクのよさに気付いたから心が変わった。 ・ばらは同じだが、ドラガンのばらに対する方が変わった。	違う「このばらがすばらしいだって」と言っているのに、最後は「これがばらの花なのか」と言っているから 同じ「昔からあわいピンクのばらが咲いていた…」と書いてあるから 「昔からあわいピンクのばらが咲いていた…」と書いてあるから	【お題】最初のあわいピンクのばらと青いばらの中のピンクのばらは同じ？違う？ クイズ「この話は、何年間にわたっての話？」 クイズ「ばらの花は何色？」	5/26 P38 「ばらの谷」 5/7 ○なぜ、ドラガンの心情は変化したのだろうか話し合ってみよう

算数科の例

算数科の例

6/15 P28 「単元名」 2/6 ○本時のめあて 思 これまで学習した内容や前時の内容で、本時の内容にかかわった問題を提示し、積み上げや活用を意識する も 本時のめあてにかんする問題を提示する ・予想や解決するための方法や手立て ・自分の考え	友達やグループの考え適応問題 ・友達への考え ・グループ学習で話し合いをした結果 ・適応問題など まとめ ・全体で話し合った結果をきまりとして導き出したり解決方法として共有したりする 振り返り ・めあてにもどって、振り返りを書いたり発表したりする
--	--

* 黒板はいつもきれいにすっきりと！ * 黒板の溝は、掃除時間に雑巾で水ぶきをしておきます！

ノート指導

書くことで自分の考えが整理され、自らの理解度を知ることができます。言葉で書き表すことで、**できる**ということは、**理解している**ということです。ノートに「何を書くのか」「どのように書き表すのか」ただ板書された内容をそのまま視写するだけでなく、視点をもって細やかにそして丁寧に指導を行うことが大切です。

自分の考えを書くときは、結論・具体例、理由、根拠を書く習慣をつけましょう！

ノートに書くべきこと

- ・学習した日、教科書のページ ・何時間分の何時目 ・本時のめあて ・自分の考え
・友達の手紙 ・まとめ ・振り返り * 1 時間の学習内容は見開きで書く

国語科の例

勝俣さんから学ぶこと
 覚悟をもつことが仕事の責任。
 ③海獣医師は、動物にとって何が
 大切かを考える。また、自分で
 決めたことは責任をもつて行う。
 国村さんから学ぶこと
 ・「最後までやるしかない」とい
 う気持ちで取り組む。
 ・努力をすれば完成する。
 ④自分でつかんだ技術はにげない。
 たから職人になるには努力して
 技術をつかむ。試行錯誤
 どんな人？
 ・完ぺきになるまで努力してあきら
 めない人。
 杉野さんから学ぶこと
 ・完ぺきになるまであきらめては
 いけない。

自分の考えのページ

日付・教科書のページ

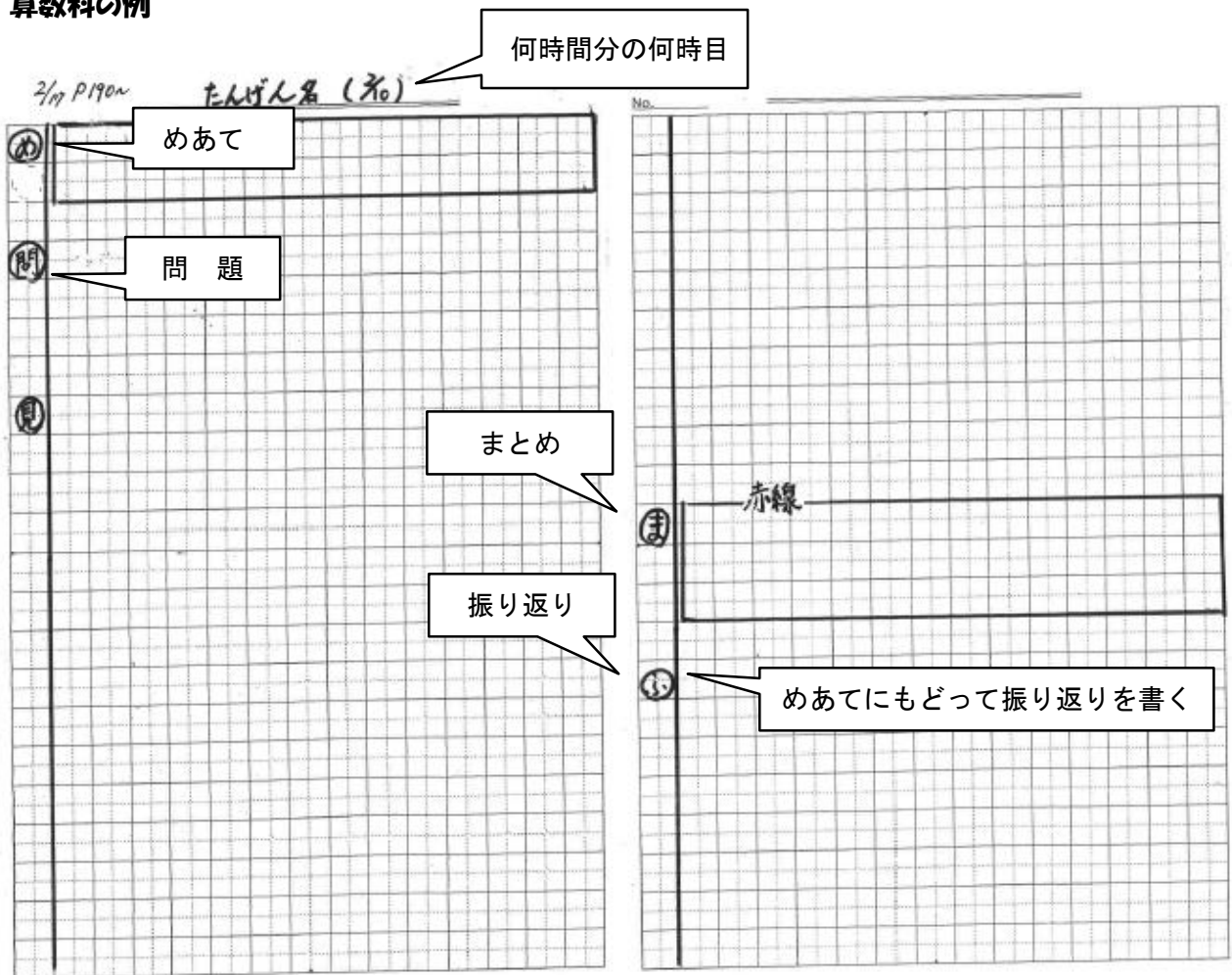
めあて

○勝俣さんの姿勢から学ぼう
 構成：序論・本論・結論
 キーワード
 一発想 二試行錯誤 三次に
 ○どうして手術にふみきることができたのだろう。
 ・カレンのように手術をおくらせてムツクに死んでほしくなかったから。
 問 国村さんは、どんな人？
 ・一生懸命な人
 理 一日中ハンマーをふりつづけて手は豆だらけになっていったから。
 友 おねがり強い、努力家、受け入れ成功させよう、弱音をはいかない、目的をかならずやり遂げる、逃げずにあきらめない

何時間分の何時目

板書のページ

算数科の例



- 子どもたちが提出したノートにはコメントを書きましょう。めあてをもとに、どのくらい達成することができているのか、どこが素晴らしいのか、具体的に評価できるといいですね。
- 「板書の例」「ノート指導例」には、実際の板書や子どもたちのノートを載せたいと考えています。
「これは素晴らしい!」と思える板書やノートは、写真を撮ったりコピーをしたりして保存してください。